

精神医学的な見地からニコチン依存症をスクリーニングすることを目的として開発されたものであり、10項目の質問から構成され、5項目以上に該当する場合にニコチン依存症が疑われる。

e. インターネット依存質問票 (Internet Addiction Test; IAT) 8)

IATは20項目からなるテストで20-39点を標準ユーザー、40-69点を問題ユーザー、70-100点を重篤問題ユーザーと評価する8)。日本語版は他の研究班が邦訳したものを使用した。

f. ギャンブル依存質問票 (South Oaks Gambling Screen; SOGS) 9)

病的賭博 (ギャンブル嗜癖) は修正日本語版 SOGS を用いて評価し、5点以上を病的賭博者とした9)。他の研究班が邦訳したものを使用した。

g. ベンゾジアゼピン系薬物依存質問票 (BDEPQ)

海外にて作成されてベンゾジアゼピン依存症のスクリーニングに広く使用されているスクリーニングテストである。本研究班で邦訳したものを使用した。海外ではカットオフ値は23点とすることが推奨されており、本研究班でも23点を採用した。

h. 寝酒の頻度・量

調査に用いた調査票は本報告書に添付資料として示した。

## ② 標本抽出

層化2段無作為抽出法により、岩手県、宮城県、福島県を除く100地点から今回の対象とした20歳以上の男女2,000名を抽出した。抽出方法の詳細は添付資料として本報告書に示した。

## ③ 調査方法

あらかじめ抽出された対象者に対して、事前に調査依頼のはがきを送付した。調査は一斉に平成25年11月7日から同年12月3日までの間に実施した。各地区の調査員が対象者の自宅へ出向いて、面接調査部分は面接により回答を聴取し、面接後に自記式調査票に記入を依頼して調査票は調査員が後日自宅を訪問して回収した。有効回答は面接調査が1082名(54.1%)、自記式質問票は1059名(53.0%)から得られた。回答の得られなかった理由として、転居86名(9.1%)、長期不在51名(5.4%)、一時不在261名(27.6%)、住所不明28名(3.0%)、拒否468名(49.6%)、その他21名(2.2%)、面接または留置のみ協力29名(3.1%)となっている。なお、実際の調査は上記標本抽出を含めて、社団法人新情報センターに委託した。

## ④ 解析方法

得られた回答はコンピューターに入力して解析を行った。解析には統計解析パッケージ SAS (version 9.2) を使用した。サンプリングで層化2段無作為抽出を行っているため、データの補正は行っていない。

## ⑤ アルコール乱用の同定

アルコール乱用はDSM-IVで定義されるカテゴリーである。本研究ではDSM-IVの診断基準に合わせた面接調査票を用いている。

以下にその診断基準を示す。

臨床的に著名な障害や苦痛を引き起こす不適応的なアルコール使用様式で、以下の少なくとも一つが12か月以内に起こる

ことによって示される。症状は依存の診断基準を満たしたことはない。

- (1) アルコールの反復的な使用の結果、仕事、学校、または家庭の重要な役割義務を果たすことができなくなる。
- (2) 身体的危険のある状況でアルコールを反復使用する。
- (3) 反復的に引き起こされるアルコール関連の法律上の問題。
- (4) 持続的、反復的な社会的または対人関係の問題がアルコールの影響により引き起こされたり、悪化したりしているにもかかわらず、アルコール使用を継続する。

診断基準ではアルコールを含むすべての精神作用物質に共通するが、ここでは作用物質はアルコールに限定して記載した。調査では最近1年間および生涯にわたって該当する項目について聴取した。

#### ⑥ アルコール依存症の同定

本研究ではDSM-IVの診断基準に合わせた面接調査票を用いている。

以下にその診断基準を示す。

臨床的に重大な障害や苦痛を引き起こすアルコール使用の不適應的な様式で以下の3つ（またはそれ以上）が、同じ12か月の期間内のどこかで起こることによって示される。調査では過去1年間および生涯にわたって該当する項目があるか聴取した。

- (1) 耐性、以下のいずれかによって定義されるもの：a. 酩酊または希望の効果を得るために著しく増大した量のアルコールが必要 b. アルコールの同じ量の持続使用によ

り、著しく効果が減弱

- (2) 離脱、以下のいずれかによって定義されるもの：a. アルコールに特徴的な離脱症候群がある b. 離脱症状を軽減したり回避したりするために、アルコールを摂取する
- (3) アルコールをはじめのつもりより大量に、またはより長い期間、しばしば使用する
- (4) アルコールを中止、または制限しようとする持続的な欲求または努力の不成功のあること
- (5) アルコールを得るために必要な活動（例：長距離を運転する）、アルコール使用（例：立て続けに飲む）、またはその作用からの回復などに費やされる時間の大きいこと
- (6) アルコールの使用のために重要な社会的、職業的または娯乐的活動を放棄、または減少させていること
- (7) 精神的または身体的問題がアルコールによって持続的、または反復的に起こり、悪化しているらしいことを知っているにもかかわらず、アルコール使用を続ける

#### （倫理面への配慮）

本研究は独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター倫理審査委員会の承認を得て実施した。調査対象者に対しては、調査の趣旨・内容・方法等を記した依頼状を郵送して、調査の内容を伝え、その後調査員が自宅を訪問して、対象者に調査の趣旨、内容、方法をよく説明して書面による同意を得た上で調査を実施した。また、得

られた情報は厳密に保管して、本調査の関係者以外が取り扱えないよう配慮し、個人情報の漏洩予防には十分な対策を講じた。データの公表の際には個人名などの個人が特定される情報は削除し、個人情報の保護には十分配慮する。

## C. 研究結果

### 1. 回答者の背景情報(表 1~7)

回答者の性別、年齢別および住居地域別分布は付表の基本集計の通りである。男性は 493 名、女性は 589 名から回答を得た。平均年齢は男性が 54.7±16.7 歳、女性が 52.0±16.4 歳と女性で年齢が若い。

回答者の教育歴は学校に通った年数を尋ねている。中学卒業程度の 9 年までが男性は 11.4%、女性は 11.5%、高校中退または卒業程度の 10 年~12 年が男性 36.4%、女性は 42.7%であった。

婚姻状況は配偶者と同居している者が男性の 76.1%、女性の 66.7%と最多であり、その次は男女とも未婚で男性は 18.7%、女性は 17.7%であった。

同居家族数は男性では本人を含めて 2 名が最多で 30.4%、女性は 3 名が最多で 27.3%を占めた。次に多いのは男性の場合、3 名で 26.8%、女性は 2 名で 26.0%であった。

職業は男性では勤め(正社員・職員)が 46.5%、無職が 26.2%の順であり、女性では専業主婦が 34.5%、勤め(非常勤)が 28.2%の順である。

回答者の収入は男性では 200~300 万円未満が 23.9%と最も多く、300~400 万円未満が 17.2%と次に多い。女性では 100 万円未満が 28.5%、100~200 万円未満が 25.6%の順であった。

### 2. 震災による被害の有無(表 8)

震災による被害は少数であるが、男性の 6.1%、女性の 7.0%で被害があったと回答している。被害の内訳は巻末に資料として掲載する。

### 3. 飲酒パターン

飲酒については面接調査票にてアルコール飲料を飲んだ経験の有無、飲酒頻度、飲酒量、飲酒開始年齢、少量の飲酒による顔面紅潮の有無、自記式調査票では各スクリーニングテストに加えて寝酒の習慣の有無と頻度を聴取している。

#### 1) 飲酒経験の有無(表 9)

男女で比較すると男性で経験者の割合が高い。男性では 94.52%、女性の 80.0%が飲酒経験ありと回答している。一方、高齢の女性では飲酒経験のないものが 70 歳代で約 47%、80 歳以上では半数に飲酒経験がない。

#### 2) 飲酒頻度(表 10)

飲酒頻度は面接調査および自記式質問票(AUDIT)で確認しているが、表には面接調査で聴取した頻度を集計した。調査では平均的な飲酒の頻度を質問している。

表には年代・性別の飲酒頻度を示したが、男女とも年齢によって頻度が異なることが明らかである。20 歳代で男女を比較すると毎日飲酒すると回答した男性はおらず、週に 3~6 日は 15.8%であったのに対して女性の 8.2%が毎日、8.2%が週に 3~6 日飲酒すると回答している。飲酒頻度が高いものの割合は女性に多い一方で月に 1 日以下の割合も女性に多い。このように 20 歳代の女性では高い頻度で飲酒する女性とあまり飲酒しない女性の 2 極化が生じている可能性

がある。一方、30歳代以上の年代ではいずれの年代も男性で頻度が高い。飲酒頻度に関して男性で頻度が高いことは従来の飲酒実態調査の結果と一致する。特に60歳代の男性では半数近くが毎日飲酒すると回答している。一方、本調査では若い世代では高い頻度で飲酒する者の割合は女性が多いという結果が示された。この女性の方で飲酒頻度が多いという結果は従来の飲酒実態調査ではみられなかった結果である。

#### 4) 飲酒量(表 11)

本調査では過去1年間に飲酒経験のあった者に対して普段の1日の飲酒量を質問している。酒類を a. ビール・発泡酒、b. 日本酒、c. 焼酎、d. 酎ハイ類、e. カクテル類、f. ワイン、g. ウイスキー類、h. その他に分類して、酒類ごとにコップの写真を見てもらいながら量を推計して飲酒量を調査する方法を採用した。集計には各飲料に含まれる純アルコール量を用いた。なお、アルコール量の単位には純アルコール10グラムを1単位として集計した。

表には飲酒経験のある者のみの集計を示す。飲酒頻度同様に20歳代では1回あたりの飲酒量はほぼ同じだが、30歳以上の年代では明らかに男性で飲酒量が多い。若い世代では飲酒に関する男女差がなくなっていることが示されている。

#### 5) 飲酒量の分布(表 12)

1回あたりの飲酒量を分類して性別、年代別に比較した。

20歳代の男女を比較するとともに割合の多い飲酒量は男性で2単位未満なのに対して、女性では2単位以上4単位未満と女性の方が多く、6単位以上を飲酒する多量飲酒者の割合も女性で高い(男性15.4%、

女性17.2%)。

30歳代以上の年代では男性で飲酒量が多いことは表11の結果と同じである。特に40歳代、50歳代の男性では6単位以上飲酒する多量飲酒者の割合は概ね4人に1人の割合であった。

#### 6) 寝酒の習慣(表 13)

眠りを助けるために飲酒することを寝酒と定義してその習慣の有無、頻度について質問している。表には性別・年代別に寝酒の頻度を示す。男性の場合は40歳代、50歳代で寝酒の頻度が高い傾向にある。女性は男性より頻度がかなり少ない。

#### 4. AUDIT、CAGE テスト

これらのテストはいずれも国外から導入された。両テストとも国内外で広く使用されているものである。

##### 1) AUDIT (表 14)

表にはカットオフ値を8点、12点、15点とした場合の割合を性別・年代別に示した。

男性の場合、いずれのカットオフ値においても40歳代、50歳代でカットオフ値を上回る割合が高い。一方、女性の場合はカットオフ値が8点の場合は20歳代~40歳代で多いが、12点、15点では30歳代、40歳代で多いという結果であった。

##### 2) CAGE (表 15)

表には性別・年代別の点数を示した。男性ではAUDITと同様に若い世代で陰性者が多く、30歳代で最多で40歳代が次ぐ。女性では男性より点数の低い者が多いが、40歳代で1点以上の割合が高い。

#### 5. DSM-IV 基準による乱用・依存の割合

表 16 には性別・年代別に乱用・依存の

基準を最近12カ月間と1年以上前の過去に分けて該当する者の割合を示した。

#### 1) アルコール乱用

対象者全体では過去1年間に乱用の基準に該当するものは男性2.0%、女性1.2%、生涯の乱用の基準に該当するものは男性9.7%、女性2.7%であった。この調査結果を10歳階級で集計して、2012年10月の日本総人口を基準として年齢調整をすると、現在のアルコール乱用の基準に該当するのは男性の2.3%、女性の1.4%、生涯の基準に該当するのは男性の9.4%、女性の2.4%となる。

年齢分布をみると、過去に乱用の基準に該当した者の割合は男性では40歳代で最多であり、20歳代、50歳代が次ぐ。女性の場合は生涯の乱用は50歳代、30歳代の順で多かった。

#### 2) アルコール依存症

現在の依存症の基準に該当する者の割合は男性では50歳代が最多であり、40歳代が次ぐ。女性は男性に比べると該当する者は少ないが、20歳代、30歳代で多く、40歳代が次ぐというパターンは男性と異なり、若い世代に多い。このことは飲酒量の多いものが女性の場合は若い世代に多いことと一致している。対象者全体では男性の9.9%、女性の1.5%が現在の依存症の基準に該当した。乱用の場合と同様に2012年の日本総人口を基準として年齢調整すると、現在の依存症の有病率は男性の10.0%、女性では1.5%であった。

一方、生涯の依存についてみると、男性では40歳代、50歳代で最多であり、現在の依存と同様に中年世代に多いというパターンである。女性の場合は30歳代、40歳代が多い。対象者全体では男性の21.9%、

女性の5.4%が生涯の依存症の基準に該当し、この結果を日本総人口を基準に年齢調整すると男性の20.3%、女性の5.1%が該当することになる。

#### 6. 喫煙

喫煙に関しては過去に100本以上のたばこを吸ったことがあるものを喫煙経験あり、ない者を非喫煙者と定義した。さらに、調査前1カ月間に喫煙ありと回答したものを喫煙者、過去1か月間には飲酒していないと回答したものを元喫煙者と定義して、表にその割合を男女・年代別に示した。

##### 1) 喫煙者の割合 (表17)

全体では非喫煙者は男性の35.3%、女性の81.2%、元喫煙者は男性の27.7%、女性の9.0%、現在の喫煙者は男性の33.9%、女性の8.5%であった。男性では40歳代から50歳代で喫煙者の割合が高く、女性では20歳代で最多である。

##### 2) ニコチン依存のスクリーニングテスト (表18)

この調査では2種類のスクリーニングテストを用いた。表にはFTND、TDSそれぞれのカットオフ基準値での割合を性別・年代別に示す。男性ではFTNDのカットオフ値を上回っているのは40歳代~60歳代で割合が高い。女性ではFTNDの高得点は少ない。TDSについてみると男性では30歳代から50歳代でカットオフを上回る高得点者の割合が高いが女性の場合は20歳代で最多となっている。

##### 7. インターネット依存質問票(表19)

表にはIAT40点以上の者の割合を性別・年代別に示す。表から明らかなようにインターネット依存が疑われるIAT40点以上のものは男女とも20歳代で最多であり、

30 歳代、40 歳代が次ぎ、それ以上の年代ではゼロであった。

#### 8. ギャンブル依存質問票(表 20)

SOGS5 点以上の者の割合を性別・世代別に表に示す。性別では男性に多く、年代では男性は 40 歳代、50 歳代で割合が高い。一方、女性は 20 歳代で最多であり、30 歳代が次ぎ、男性とは異なるパターンであった。

#### 9. 睡眠薬の使用とベンゾジアゼピン系薬物依存(表 21、22)

本調査では自記式質問票に睡眠に関する質問項目が含まれており、「眠りを助けるために睡眠剤や安定剤を使うことがありますか」という設問がある。さらに使うことがある場合にはその頻度を回答してもらう。

表 21 にはその頻度を性別・年代別に示す。1 週間に 5 日以上とほぼ毎日使用している者の割合は全体では女性に多く、年代では男女とも 70 歳代の高齢者に多いことがわかる。

表 22 には BDEPQ の 23 点以上の者の割合を性別・年代別に示すが、睡眠薬の使用頻度と同様に女性に多い。男性では全体で 0.4%と極めて少ないが、女性では少ないながらもどの年代にも数%認められていた。

#### 10. AUDIT と他のスクリーニングテスト結果との相関について(表 23~28)

表には AUDIT8 点以上と他のスクリーニングテストとのクロス集計を示す。AUDIT はニコチン依存スクリーニングテストとは FTND、TDS とともに男女共通して強い相関を示しており、アルコール問題と喫煙は相関が強いことを示す。

一方、インターネットとは有意な相関を認めなかった。ギャンブル依存とも同様

であった。

睡眠薬の使用頻度に関しても特に相関は認められなかった。BDEPQ と AUDIT についても相関を認めなかった。

寝酒とのクロス集計では強い相関が認められ、AUDIT8 点以上の者では寝酒の頻度が有意に高く、アルコールを睡眠薬代わりに使用している可能性を示唆するものといえる。

#### 11. 被災状況との相関について

次に被災状況と飲酒関連行動との関連をみたが、東日本大震災によって被害があったと報告しているのは男性の 6.1%、女性の 7.0%と低い割合である(表 8)。従って、統計検定の解釈には注意が必要であるが、震災による被害と相関を認めたものは女性における多量飲酒者の割合(表 29)と DSM-IV のアルコール乱用(表 30)であった。男性ではむしろ被害のあったものは多量飲酒者の割合が低く、DSM-IV のアルコール乱用に該当する者の割合も被害のなかった男性と等しいため、これらの結果の解釈には注意を要する。

#### D. 考察

本研究は一般住民調査を用いて震災被害がアルコール関連問題や嗜癖行動へ及ぼす影響について検討するものである。本年度は昨年度に調査した岩手県・宮城県沿岸部と内陸部の住民調査の対照コントロールとして全国の住民を対象とした調査を実施した。

まず、本調査結果を 2008 年に実施された全国調査(11)と比較すると、AUDIT8 点以上の割合は本研究では男性の 25.3%、女性の 3.8%が 2008 年全国調査では男性 22.9%、

女性 3.6%とほぼ同様の割合であった。AUDIT12 点以上は本研究の対象となった男性の 10.1%、女性の 1.3%であったのに対して 2008 年全国調査では男性 10.5%、女性 1.7%とほぼ同じ割合である。同様に AUDIT15 点以上の割合は本調査対象者のうち、男性では 5.8%、女性 0.9%であったのに対して 2008 年全国調査では男性 5.7%、女性 0.8%と男性ではやはりほぼ同じ割合である。

一方、アルコール依存症の診断基準に当てはまるものの割合は本研究と 2008 年の調査とは基準が異なるため、直接比較することはできない。しかし、本調査で使用した DSM-IV の診断基準を用いると男性の 7.7%、女性の 1.7%がアルコール依存症の基準を今までに満たしたことがある（障害有病率）のに対して 2008 年の調査では ICD-10 を用いているが、アルコール依存症の生涯有病率に該当したのは男性の 1%、女性の 0.2%と大きな違いが見られている。

その理由として、アルコール依存症の診断基準そのものの違いが挙げられる。ICD-10 と DSM-IV の診断基準を比較すると基準そのものにはあまり大きな違いはない。ICD-10 では 1) 飲酒への強い欲望、2) 飲酒を始めたり止めたりすることや飲酒量のコントロール喪失、3) 中止または減量した時の離脱症状、4) 耐性の存在、5) 飲酒中心の生活、6) 負の強化への抵抗の 6 項目の内、3 項目以上が認められることが必要となる。一方、DSM-IV は、1) 耐性、2) 離脱症状、3) 飲酒のコントロール喪失、4) 断酒や節酒が不能であること、5) 飲酒に関連したことに長い時間を費やすこと、6) 飲酒のために社会的、職業的、娯楽的活動を放棄したり減少させること、7)

負の強化への抵抗の 7 項目の内、3 項目以上が認められることが必要となる。しかし、ICD-10 では 1 年間に同時に 3 項目以上に当てはまることが必要なのに対して DSM-IV では 3 項目以上が 1 年間のどこかで認められれば該当とみなされる。基準に該当する時期の違いがその割合に影響している可能性が考えられる。

本研究では米国の大規模研究で使用された調査質問票のアルコール使用障害の部分を邦訳して施行したため、2 国間での比較が可能となる。

図 1~4 に論文に発表された米国での調査結果と本研究の結果との比較を示す。米国の調査は 2001 年から 2002 年にかけて全米の 18 歳以上の一般住民 43,093 名を対象としている。アフリカ系住民やヒスパニック、若年者（18 歳から 24 歳）の割合が全米の割合より多かったと報告されている（13）。

アルコール依存症（過去 1 年）およびアルコール乱用（過去 1 年）の有病率を性別、年齢別に分けて比較した。男性の依存症有病率については日米間ではむしろ本研究で有病率が高いという結果であった。また、米国の調査では依存も乱用も若い世代に多いことが特徴として挙げられる一方、本研究では男性の場合は図 1 に示すように中年世代の有病率が高いという特徴がある。しかし、乱用については男女、年齢に無関係に米国で明らかに有病率が高い。国民性や飲酒パターンの違いなどが影響している可能性が考えられるが、今後の課題である。

いずれにせよ、本研究はこの調査票を用いて一般住民を対象に調査を実施した初めての研究である。

喫煙者の割合は男性 30.8%、女性 10.4%であったが、この結果を平成 23 年の国民栄養調査 12)の結果と比較すると男性 32.4%、女性 9.7%と男女とも概ね同じ割合であった。

FTND7 点以上（高度依存）の割合は男性の 2.8%、女性の 0.4%が該当していた。この割合を前述の 2008 年全国調査と比較すると、男性の 5.1%、女性の 0.6%が FTND7 点以上と報告されており、男性ではやや少ないものの、女性はほぼ同じ割合である。

インターネット依存の IAT40 点以上の割合は男女とも 20 歳代、30 歳代という若い世代で高いという特徴があるが、これは既存の多くの調査結果と一致する。本研究では素集計で男性の 4.7%、女性の 2.5%が 40 点以上であった。これを 2012 年の 20 歳以上総人口で年齢を標準化すると男性の 6.9%、女性の 2.5%となる。一方、2008 年の全国調査では年齢を調整した割合で男性の 8.3%、女性の 7.7%が 40 点以上という結果であった。

ギャンブルに関しては SOGS5 点以上の割合は男性 11.1%、女性 1.7%であった。これを総人口で年齢調整をすると男性の 11.5%、女性の 1.7%が 5 点以上となる。2008 年の全国調査では男性 9.5%、女性 1.6%と男女ともほぼ同じ割合であった。

今回の調査で震災の影響を検討するために沿岸部と内陸部での比較と被災状況との関係について集計した。

#### E. 結論

本研究の目的は、被災地におけるアルコール関連問題や嗜癖行動の実態を調査し、震災との関連を検討することにある。

本年度は被災地調査の対照コントロー

ルとして全国を対象とした実態調査を実施した。

本研究は国内では初めて DSM-IV を用いてアルコール依存症および乱用の全国の一般住民を対象として有病率調査を実施した。米国における調査結果との比較から、わが国では中年男性の依存症の有病率が高い可能性が示唆された。また、その他の項目について本研究で得られた結果は 2008 年の全国調査結果とほぼ同じ結果であり、調査の妥当性は得られたと考える。

昨年度の岩手県・宮城県調査との比較については、分担研究者である尾崎米厚先生の報告書をご覧いただきたい。

#### 参考文献

- 1) American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fourth Edition, American Psychiatric Association, Washington, D.C., 1994 (高橋三郎, 大野 裕, 染谷俊幸訳: DSM-IV 精神疾患の分類と診断の手引、医学書院、東京、1995)
- 2) Grant BF, Dawson DA, Stinson FS, et al.: The 12-month prevalence and trends in DSM-IV alcohol abuse and dependence: United States, 1991-1992 and 2001-2002. Drug Alcohol Depend, 74: 223-234, 2004.
- 3) Saunders JB, Aasland OG: WHO Collaborative Project on Identification and Treatment of Persons with Harmful Alcohol Consumption, Report on Phase I. Development of a Screening Instrument (MNH/DAT/86.3), World Health Organization, Geneva, 1987.
- 4) 廣 尚典、島 悟: 問題飲酒指標 AUDIT



日本語版の有用性に関する検討。日本アルコール・薬物医学会雑誌 31; 437-450, 1996.

5) Mayfield DG, McLeod G, Hall P: The CAGE questionnaire: validation of a new alcoholism screening instrument. *Am J Psychiatry*, 131: 1121-1123, 1974.

6) Heatherton TF, Kozlowski LT, Frecker RC, et al.: The Fagerström Test for Nicotine Dependence: a revision of the Fagerström Tolerance Questionnaire. *Br J Addict*, 86: 1119-1127, 1991.

7) Kawakami N, Takatsuka N, Inaba S, et al.: Development of a screening questionnaire for tobacco/nicotine dependence according to ICD-10, DSM-II-R, and DSM-IV. *Addict Behav*, 24: 155-166, 1999.

8) Young KS: *Caught in the Net*. John Wiley & Sons, Inc., New York, 1998.

9) Lesieur HR, Blume SB: The South Oaks Gambling Screen (SOGS): a new instrument for the identification of pathological gamblers. *Am J Psychiatry*, 144: 1184-1188, 1987.

10) Baillie AJ, et al.: The Benzodiazepine Dependence Questionnaire: Development, reliability and validity. *Br J Psychiatry*, 169: 276-281, 1996.

11) 樋口 進: 成人の飲酒と生活習慣に関する実態調査研究 厚生労働科学研究費補助金 わが国における飲酒の実態ならびに飲酒に関連する生活習慣病、公衆衛生上の諸問題とその対策に関する総合的研究 (主任研究者: 石井裕正) 平成 20 年度総括分担研究報告書 2009 年 3 月

12) 厚生労働省「国民栄養の現状」(国民栄

養調査結果) <http://www.health-net.or.jp/tobacco/product/pd100000.html>

13) Falk DE, Yi H-Y, Hiller-Sturmhöfel S: An epidemiologic analysis of co-occurring alcohol and tobacco use and disorders: Findings from the National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions. *Alcohol Res Health*, 29: 162-171, 2006.

#### F. 健康危険情報

特になし。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

- 1) 藤田さかえ: 被災地のアルコール関連問題に対するソーシャルワークのこころみ。日本アルコール関連問題学会。岐阜市。2013. 7 月
- 2) 佐久間寛之、松下幸生、木村 充、藤田さかえ、瀧村 剛、尾崎米厚、樋口 進: 被災地におけるアルコール関連問題・嗜癖行動の実態調査。平成 25 年度アルコール薬物依存関連学会。岡山市。2013. 10. 4
- 3) 瀧村 剛、松下幸生、中山秀紀、中山寿一、吉村 淳、遠山朋海、真栄里 仁、樋口 進: 東日本大震災後の被災地消防団におけるアルコール関連問題の変化 岩手県大船渡市消防団に対する調査より。平成 25 年度アルコール薬物依存関連学会。岡山市。2013. 10. 4
- 4) Kimura M: The prevalence of alcohol, nicotine, hypnotic abuse in the earthquake and tsunami stricken area in Japan. International Society for

Addiction Medicine, Kuala Lumpur,  
Malaysia. 2013.11月

5) Sakuma H, Matsushita S, Kimura M,  
Fujita S, Takimura T, Higuchi S: The  
prevalence of alcohol, nicotine,  
hypnotic abuse in the earthquake and  
tsunami stricken area in Japan.  
Kurihama-Pusan Joint Workshop. Kamakura,  
Japan, 2014.3月

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
特になし

表1 基本集計（性・年齢階級別、回答数）

年齢階級	男性		女性		男女合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
20歳代	39	7.9	64	10.9	103	9.5
30歳代	72	14.6	93	15.8	165	15.3
40歳代	77	15.6	108	18.3	185	17.1
50歳代	87	17.7	105	17.8	192	17.7
60歳代	109	22.1	122	20.7	231	21.4
70歳代	85	17.2	79	13.4	164	15.2
80歳以上	24	4.9	18	3.1	42	3.9
合計	493	100.0	589	100.0	1082	100.0

注：端数を四捨五入しているため100パーセントにならない場合がある

表2 基本集計（平均年齢）

	男性	女性	男女計
平均値	54.7	52.0	53.2
最小値	20	20	20
最大値	98	87	98
標準偏差	16.7	16.4	16.6

表3 基本集計（教育年数）

	6 年以下		7 年以上 9 年以下		10 年以上 12 年以下		13 年以上 15 年以下		16 年以上		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
男性											
20 歳代	0	0	0	0	11	28.2	10	25.6	18	46.2	39
30 歳代	0	0	3	4.2	25	34.7	10	13.9	34	47.2	72
40 歳代	0	0	4	5.3	28	36.8	13	17.1	31	40.8	76
50 歳代	0	0	5	5.8	35	40.2	13	14.9	34	39.1	87
60 歳代	0	0	11	10.1	48	44.0	13	11.9	37	33.9	109
70 歳代	0	0	21	24.7	29	34.1	11	12.9	24	28.2	85
80 歳以上	3	12.5	9	37.5	3	12.5	5	20.8	4	16.7	24
全体	3	0.6	53	10.8	179	36.4	75	15.2	182	37.0	492
女性											
20 歳代	0	0	1	1.6	19	29.7	19	29.7	25	39.1	64
30 歳代	0	0	2	2.2	28	30.1	42	45.2	21	22.6	93
40 歳代	0	0	1	0.9	39	36.5	47	43.9	20	18.7	107
50 歳代	1	1.0	4	3.8	55	52.4	30	28.6	15	14.3	105
60 歳代	0	0	18	14.8	68	55.7	20	16.4	16	13.1	122
70 歳代	2	2.5	27	34.2	36	45.6	12	15.2	2	2.5	79
80 歳以上	3	16.7	9	50.0	6	33.3	0	0	0	0	18
全体	6	1.0	62	10.5	251	42.7	170	28.9	99	16.8	588

表4 基本集計（婚姻状況）

	配偶者と同居		配偶者と別居		内縁関係		死別		離婚		未婚（結婚したことがない）		無回答		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
男性															
20歳代	9	23.1	1	2.6	0	0	0	0	0	0	28	71.8	1	2.6	39
30歳代	49	68.1	0	0	0	0	0	0	2	2.8	21	29.2	0	0	72
40歳代	56	72.7	0	0	0	0	0	0	1	1.3	20	26.0	0	0	77
50歳代	71	81.6	1	1.2	0	0	0	0	2	2.3	13	14.9	0	0	87
60歳代	92	84.4	1	0.9	0	0	2	1.8	5	4.6	9	8.3	0	0	109
70歳代	78	91.8	1	1.2	0	0	3	3.5	2	2.4	1	1.2	0	0	85
80歳以上	20	83.3	1	4.2	0	0	3	12.5	0	0	0	0	0	0	24
合計	375	76.1	5	1.0	0	0	8	1.6	12	2.4	92	18.7	1	0.2	493
女性															
20歳代	17	26.6	0	0	0	0	0	0	1	1.6	46	71.9	0	0	64
30歳代	71	76.3	1	1.1	0	0	0	0	2	2.2	19	20.4	0	0	93
40歳代	78	72.2	4	3.7	0	0	0	0	7	6.5	19	17.6	0	0	108
50歳代	83	79.1	5	4.8	0	0	4	3.8	5	4.8	8	7.6	0	0	105
60歳代	92	75.4	0	0	0	0	19	15.6	3	2.5	7	5.7	1	0.8	122
70歳代	47	59.5	1	1.3	0	0	29	29.1	5	6.3	3	3.8	0	0	79
80歳以上	5	27.8	2	11.1	0	0	9	16.4	0	0	2	11.1	0	0	18
合計	393	66.7	13	2.2	0	0	55	9.3	23	3.9	104	17.7	1	0.2	589

表5 基本集計（同居家族の数）

	1人		2人		3人		4人		5人		6人		7人		8人		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
男 性																		
20歳代	7	18.0	8	20.5	8	20.5	6	15.4	6	15.4	2	5.1	2	5.1	0	0	0	39
30歳代	7	9.7	4	5.6	23	31.9	24	33.3	7	9.7	6	8.3	1	1.4	0	0	0	72
40歳代	7	9.1	17	22.1	17	22.1	18	23.4	12	15.6	5	6.5	1	1.3	0	0	0	77
50歳代	10	11.5	21	24.1	26	29.9	21	24.1	8	9.2	0	0	1	1.2	0	0	0	87
60歳代	11	10.1	43	39.5	31	28.4	15	13.8	5	4.6	3	2.8	1	0.9	0	0	0	109
70歳代	6	7.1	42	49.4	23	27.1	5	5.9	4	4.7	5	5.9	0	0	0	0	0	85
80歳以上	2	8.3	15	62.5	4	16.7	1	4.2	1	4.2	1	4.2	0	0	0	0	0	24
合計	50	10.1	150	30.4	132	26.8	90	18.3	43	8.7	22	4.5	6	1.2	0	0	0	493
女 性																		
20歳代	4	6.3	7	10.9	24	37.5	16	25.0	9	14.1	3	4.7	1	1.6	0	0	0	64
30歳代	6	6.5	10	10.8	18	19.4	37	39.8	11	11.8	8	8.6	2	2.2	1	1.1	1	93
40歳代	7	6.5	11	10.2	28	25.9	40	37.0	15	13.9	6	5.6	0	0	1	0.9	0	108
50歳代	6	5.7	28	26.7	39	37.1	22	21.0	7	6.7	1	1.0	1	1.0	1	1.0	1	105
60歳代	11	9.0	56	45.9	30	24.6	9	7.4	5	4.1	9	7.4	2	1.6	0	0	0	122
70歳代	14	17.7	35	44.3	20	25.3	6	7.6	3	3.8	1	1.3	0	0	0	0	0	79
80歳以上	4	22.2	6	33.3	2	11.1	3	16.7	1	5.6	0	0	2	11.1	0	0	0	18
合計	52	8.8	153	26.0	161	27.3	133	22.6	51	8.7	28	4.8	8	1.4	3	0.5	0	589

表 6 基本集計（職業）

	自営		正社員		非常勤		学生		主婦		無職		その他		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
男 性															
20 歳代	1	2.6	28	71.8	4	10.3	4	10.3	0	0	2	5.1	0	0	39
30 歳代	8	11.1	58	80.6	5	6.9	0	0	0	0	1	1.4	0	0	72
40 歳代	13	16.9	59	76.6	3	3.9	0	0	0	0	2	2.6	0	0	77
50 歳代	20	23.0	52	59.8	6	6.9	0	0	0	0	9	10.3	0	0	87
60 歳代	17	15.6	26	23.9	26	23.9	0	0	0	0	39	35.8	1	0.9	109
70 歳代	17	20.0	4	4.7	9	10.6	0	0	0	0	55	64.7	0	0	85
80 歳以上	1	4.2	2	8.3	0	0	0	0	0	0	21	87.5	0	0	24
合計	77	15.6	229	46.5	53	10.8	4	0.8	0	0	129	26.2	1	0.2	493
女 性															
20 歳代	1	1.6	26	40.6	20	31.3	8	12.5	7	10.9	2	3.1	0	0	64
30 歳代	5	5.4	23	24.7	43	46.2	0	0	20	21.5	1	1.1	1	1.1	93
40 歳代	11	10.2	30	27.8	45	41.7	0	0	18	16.7	3	2.8	1	0.9	108
50 歳代	13	12.4	18	17.1	37	35.2	0	0	34	32.4	3	2.9	0	0	105
60 歳代	23	18.9	7	5.7	16	13.1	1	0.8	67	54.9	7	5.7	1	0.8	122
70 歳代	4	5.1	0	0	5	6.3	0	0	49	62.0	20	25.3	1	1.3	79
80 歳以上	1	5.6	0	0	0	0	0	0	8	44.4	9	50.0	0	0	18
合計	58	9.9	104	17.7	166	28.2	9	1.5	203	34.5	45	7.6	4	0.7	589

表7 基本情報（収入の分布）

	100万未満		100~200万未満		200~300万未満		300~400万未満		400~600万未満		600~800万未満		800~1000万未満		1000~1200万未満		1200~1500万未満		1500万以上		収入なし		不明		合計		
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%			
男 性																											
20歳代	3	7.7	3	7.7	13	33.3	11	28.2	2	5.1	1	2.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	7.7	3	7.7	39
30歳代	2	2.8	6	8.3	10	13.9	21	29.2	14	19.4	10	13.9	2	2.8	1	1.4	0	0	0	0	0	0	0	0	6	8.3	72
40歳代	2	2.6	3	3.9	9	11.7	15	19.5	16	20.8	17	22.1	5	6.5	2	2.6	2	2.6	2	2.6	2	2.6	2	2.6	2	2.6	77
50歳代	5	5.8	9	10.3	8	9.2	11	12.6	13	14.9	14	16.1	9	10.3	4	4.6	1	1.2	2	2.3	6	6.9	5	5.8	87		
60歳代	5	4.6	20	18.4	37	33.9	11	10.1	14	12.8	7	6.4	4	3.7	3	2.8	1	0.9	2	1.8	2	1.8	2	1.8	3	2.8	109
70歳代	5	5.9	22	25.9	31	36.5	14	16.5	1	1.2	2	2.4	1	1.2	2	2.4	0	0	1	1.2	0	0	6	7.1	85		
80歳以上	2	8.3	6	25.0	10	41.7	2	8.3	1	4.2	1	4.2	1	4.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4.2	24
合計	24	4.9	69	14.0	118	23.9	85	17.2	61	12.4	52	10.6	22	4.5	12	2.4	4	0.8	7	1.4	13	2.6	26	5.3	493		
女 性																											
20歳代	12	18.8	16	25.0	14	21.9	7	10.9	1	1.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	15.6	4	6.3	64
30歳代	22	23.7	19	20.4	10	10.8	9	9.7	5	5.4	1	1.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	19.4	9	9.7	93
40歳代	24	22.2	26	24.1	10	9.3	11	10.2	6	5.6	5	4.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	16.7	8	7.4	108
50歳代	21	20.0	27	25.7	6	5.7	6	5.7	3	2.9	5	4.8	3	2.9	1	1.0	0	0	0	0	0	0	28	26.7	5	4.8	105
60歳代	50	41.0	30	24.6	8	6.6	4	3.3	4	3.3	2	1.6	1	0.8	1	0.8	0	0	0	0	0	0	15	12.3	7	5.7	122
70歳代	32	40.5	26	32.9	9	11.4	2	2.5	1	1.3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.3	0	0	2	2.5	6	7.6	79
80歳以上	7	38.9	7	38.9	1	5.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	16.7	18
合計	168	28.5	151	25.6	58	9.9	39	6.6	20	3.4	13	2.2	4	0.7	2	0.3	1	0.2	0	0	91	15.5	42	7.1	589		



表 8 被災関連の情報

	震災による被害あり		震災による被害なし		合計
	実数	%	実数	%	
男 性					
20 歳代	3	7.7	36	92.3	39
30 歳代	3	4.2	68	95.8	71
40 歳代	4	5.2	73	94.8	77
50 歳代	9	10.3	78	89.7	87
60 歳代	4	3.7	105	96.3	109
70 歳代	7	8.3	77	91.7	84
80 歳以上	0	0	24	100.0	24
合計	30	6.1	461	93.9	491
女 性					
20 歳代	4	6.4	59	93.7	63
30 歳代	5	5.4	87	94.6	92
40 歳代	8	7.5	99	92.5	107
50 歳代	10	9.5	95	90.5	105
60 歳代	12	9.9	109	90.1	121
70 歳代	2	2.6	76	97.4	78
80 歳以上	0	0	18	100.0	18
合計	41	7.0	543	93.0	584

表9 飲酒経験の有無

	なし		あり		合計
	実数	%	実数	%	
男性					
20歳代	1	2.6	38	97.4	39
30歳代	4	5.6	68	94.4	72
40歳代	4	5.2	73	94.8	77
50歳代	2	2.3	85	97.7	87
60歳代	6	5.5	103	94.5	109
70歳代	5	5.9	80	94.1	85
80歳以上	5	20.8	19	79.2	24
全体	27	5.5	466	94.5	493
女性					
20歳代	3	4.7	61	95.3	64
30歳代	9	9.7	84	90.3	93
40歳代	12	11.1	96	88.9	108
50歳代	12	11.4	93	88.6	105
60歳代	37	30.3	85	69.7	122
70歳代	36	46.6	43	54.4	79
80歳以上	9	50.0	9	50.0	18
全体	118	20.0	471	80.0	589

表 10 飲酒頻度（性別、年代別）

	毎日		週3~6日		月2~4日		月1日以下		過去1年飲酒なし		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
<b>男 性</b>											
20歳代	0	0	6	15.8	22	57.9	10	26.3	0	0	38
30歳代	19	27.9	9	13.2	18	26.5	17	25.0	5	7.4	68
40歳代	25	34.3	17	23.3	20	27.4	6	8.2	5	6.9	73
50歳代	36	42.4	17	20.0	15	17.7	6	7.1	11	12.9	85
60歳代	48	46.6	20	19.4	13	12.6	12	11.7	10	9.7	103
70歳代	32	40.0	13	16.3	11	13.8	9	11.3	15	18.8	80
80歳以上	6	31.6	5	26.3	3	15.8	3	15.8	2	10.5	19
合計	166	35.6	87	18.7	102	21.9	63	13.5	48	10.3	466
<b>女 性</b>											
20歳代	5	8.2	5	8.2	18	29.5	27	44.3	6	9.8	61
30歳代	8	9.5	4	4.8	26	31.0	22	26.2	24	28.6	84
40歳代	18	18.8	16	16.7	23	24.0	24	25.0	15	15.6	96
50歳代	9	9.7	12	12.9	20	21.5	24	25.8	28	30.1	93
60歳代	7	8.2	10	11.8	18	21.2	26	30.6	24	28.2	85
70歳代	7	16.3	2	4.7	6	14.0	10	23.3	18	41.9	43
80歳以上	0	0	0	0	0	0	2	22.2	7	77.8	9
合計	54	11.5	49	10.4	111	23.6	135	28.7	122	25.9	471

表 11 飲酒量の比較（飲酒経験のある者のみ）（純アルコール 10 グラムを 1 単位とする）

	男性		女性	
	平均単位数	標準偏差	平均単位数	標準偏差
20 歳代	3.4	3.3	3.4	2.6
30 歳代	4.5	4.3	2.8	1.9
40 歳代	4.7	3.8	2.6	2.1
50 歳代	5.5	5.0	3.0	3.4
60 歳代	3.8	3.4	1.6	1.5
70 歳代	3.6	3.0	1.3	1.0
80 歳以上	3.1	1.9	0.6	0.3
全体	4.3	3.9	2.5	2.4